

## 黒部下ノ廊下山行報告

【山行日】2021年 10月 29～30日(金土)

【集 合】岩舟支所P AM 3:30

【費 用】マイカー1台 : 24,800円

【メンバー】CL:鈴木 SL大西

石澤、清水カ、福島、吉田、

29日 快晴 宇奈月駅からトロッコ列車に乗り  
樺平駅まで行き、黒部峡谷の水平歩道  
を歩き阿曾原温泉小屋に宿泊。

岩舟支所P3:30＝栃木市運動公園 P3:50＝

宇奈月駅 7:30/7:57+++樺平駅 9:12/9:30～

水平歩道分岐 10:10～志合谷 11:30～昼食

12:00/12:30～折尾谷 13:00/13:10～

阿曾原温泉小屋 14:40

山行アンケートで「黒部下ノ廊下に行きたい。」とリクエストがあり、我輩も70歳を超え体力的に心配だったが、荷物を軽くして行けば大丈夫と計画した。朝3時30分に岩舟支所Pに集合すると、K澤さんが来ていない。TELすると「エ～今日ですか？明日では無かったですか」と衝撃的な返事が返ってきた。



トロッコ列車の始発に乗らなければならないと思っていたら、「直ぐに行きます」との事。今から岩舟支所に向かうのでは遅くなるので、「我々が栃木市運動公園に行くから」と栃木市運動公園で待ち合わせることにした。栃木市運動公園に着くとすでに来ていて、急いで荷物を車に乗せ出発する。何とか4時前に栃木ICから東北道に入り、宇奈月駅を目指して爆走する。途中、佐久平SAと名立谷浜SAのトイレタイムは、5分以内と厳しいお達しがあり、何とか始発時間前に宇奈月駅前の駐車場に着く。駐車料金を払い、係の方に「回送業者が車を取りに来ます」と言うと、止める

場所を指定される。準備を整えたら駅まで歩いて行き、乗車券窓口の列に並んで乗車券を購入する。トロッコ列車に乗りこむと、皆さん観光気分でもとても楽しそう。走り出すと黒部峡谷の景色に大喜びで、紅葉と渓谷美に見入っていた。

1時間ちょっとのトロッコ列車の旅に満足し、樺平駅に下り立つ。駅を出た広場でトイレを済ませ、ストレッチを済ませて出発する。広場から阿曾原方面の指導票に従って左に登り、高度差200mのシジミ坂の急登が始まる。天気は2日間とも快晴の予報で、今までで一番の好天に恵まれそうだ。急坂を期待と不安を抱きながら登り、鉄塔が建つ台地まで登って休憩する。振り返ると黒部川の対岸に、後立山連峰の山々が白く輝いて見え



歓声が上がる。ここからは傾斜が緩くなり、自然林の尾根を進むと黒部川左岸に付けられた水平歩道に出る。黒部川の岩壁にコの字型に付けられた、幅50～60cmの狭い道歩いて行く。谷底までは300mの高度差があるが、木々で谷底が見えず恐怖感さほど感じず歩ける。

それでも足元でつまづかないよう、ザックが岩に当たらないよう慎重に歩いて行く。慣れてくると会話も弾み、景色を楽しみながら歩いて行く。奥鐘山西壁の大岩壁を左手に見ながら快適に歩き、その先からは



同じような風景の歩きが続いている。同じ風景に飽きたころ小さなトンネルをくぐり、すぐ先から志合谷のトンネルに入る。全員ヘッドランプを点け暗くて狭いトンネルを歩くが、皆さん楽しそうに歩いていた。トンネル内は流水があり、靴が濡れないよう石を伝って慎重に歩く。トンネルを過ぎた所から昼食の場所を探しながら歩き、水平歩道が少し広く日当たりの良い場所でランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンをいただく。お腹が満たされたら出発し、直ぐに大太鼓と呼ばれる岩が大きくせり出した場所を通過する。幅30cm位の狭い道が谷

にせり出し、高度感がハンパ無いスリル満点の箇所だ。そこから折尾谷に沿って大きく回り込み、対岸の岩壁に水平歩道が一直線に見渡せる。折尾谷を砂防堤内に付けられたトンネルをくぐって渡り、再び対岸の水平歩道を歩いて行く。紅葉を楽しみながらしばらく歩き、阿曾原谷の手前から急に高度を下げて行き、阿曾原谷を渡って登り返すと阿曾原温泉に着く。テニ場を横切って石段を登り、小屋の御夫婦に出迎えられる。受付を済ませて小屋の説明を受け、指定された部屋に落ち着く。相部屋で8人とわれ、我々の他若い女性と年配の男性が泊るようだ。3時から男性の入浴タイムなので、Y田さん



と2人で阿曾原温泉小屋



自慢の露天風呂に向かった。黒部川の縁にある露天風呂は、テニ場から急な坂道を5分程下りコンクリートの浴槽に温泉が引かれていて、紅葉を満喫しながら入れる野趣満天の露天風呂。人気の露天風呂はすでに満員状態で、少し間を空けてもらい湯舟に浸かる。少しぬるめのお湯なので、ゆっくり景色を楽しみながら温泉を堪能し小屋に戻る。小屋に戻ると女性陣は食堂で宴会中で、相部屋の女性を交えて盛り上がっていた。我々もおつまみを持参して合流し、楽しいひと時を過ごすことが出来た。同席した女性も気さくな方で、すっかり我々に馴染んで山の話に興じていた。夕食の準備でいったん部屋に戻り、5:30分から夕食タイムになる。夕食は定番のカレーライスで、揚げたてのメンチカツが付きとても美味しくいただいた。シルバー組は明日の早出に備えて直ぐに就寝したが、ヤングガール3名は7時からのビデオ観賞会を楽しんだようである。

**30日 快晴 阿曾原温泉小屋を出発し仙人ダムから十字峡、白竜峡を經由し、黒部ダム下で黒部川を渡り黒部ダム駅から扇沢駅までバスに乗り、扇沢Pで回送した車に乗って岩舟支所Pへ帰着する。阿曾原温泉小屋 5:00～仙人ダム 6:05/6:25～十字峡 8:30/9:00～白竜峡 9:30～別山谷出合 9:55/10:10 鳴沢小沢 11:00～鳴沢 11:30/12:00～内蔵助谷出合 12:40～黒部ダム下 13:40/13:55～黒部ダム駅 14:05/14:35+++扇沢駅 14:55/15:15=岩舟支所P18:30**

朝4時に起床して食堂で朝食を食べ、出発の準備を整える。外に出てみると今日も快晴で、空には満天の星が輝いていた。トイレを済ませたら外に出て、靴を履いたらストレッチを行って出発する。



小屋を出て直ぐに急登が始まり、ヘッドランプの灯りを頼りにゆっくりと登って行く。晴れた分放射冷却で気温が下がり、ダウンを着ても寒いくらい冷え込んでいる。しかし急な登りを20分くらいで汗が出て来て、途中で休憩を取り衣服調整を行った。暗闇の中皆さん無言で登り、少し空が白んで来たら会話が聞かれるようになる。登り切って短いトンネルを過ぎると急な下りになり、丸太のハシゴや階段が連続して歩きにくい。ようやく人見平の平坦な道に出ると空が明るくなり、関電の大きな建物が見えてくる。こんな山深い場所に大きな建物があり、初めての4人はビックリしていた。建屋の前を進むと仙

人ダムへの鉄の扉があり、扉を開けてダムの施設内に入る。施設内のトロッコ軌道を歩いて行き、標識に従ってダムの堰堤に出て渡って行く。ダムの堰堤上で休憩し、行動食をいただきながら景色を楽しむ。ダム上流部の山々が紅葉で染まっており、幾筋かの滝と相まって絶景を楽しませてくれる。絶景を楽しんだらダム堰堤を渡り、黒部川の右岸に付けられた作業道を進む。しばらく進むと道路は行き止まりとなり、岩場を登って東谷吊り橋で左岸へ渡り返す。長い吊橋は高度感がありスリル満点で、一人ずつ慎重に渡って行く。渡り切ったら少し登り、再び水平歩道を歩くようになる。対岸の山の中腹に黒部第四地下発電所の通気口が、ブタの鼻のように2つ並んで見える。この先から黒部峡谷のビューポイントが連続し、まずS字峡が現れ続け



て半月峡とカーブしたV字谷が美しい。このあたりから紅葉が一段と美しくなり、峡谷の激流と岩壁の紅葉は見事である。紅葉を楽しみながら進み、剣沢を吊り橋で渡ると本日のハイライト十字峡に着く。広場にザックをデポし、急坂をロープで下って展望が良い岩場に出る。この岩からの眺望が素晴らしく、黒部川本流に剣沢と棒小屋沢が十字に交わる十字峡が見渡せる。景色を楽しみ写真を撮ったら広場に戻り、みかんや菓子を食べたら出発する。



さらに水平歩道を進むが紅葉と岩が織りなす絶景に皆さん感動の連続で、写真を撮りながら楽しそう。若い2人は余裕のよっちゃん、お互いに写真を撮り合いながら歩いて行く。谷が狭くなり荒々しい岩が見えると本日の核心部白竜峡で、岩壁を栈道でへつたり丸太のハシゴを登ったり高巻したりの連続で、大迫力の登山道を進む。対向者とはすれ違えないので、声を掛け合って待ってもらう。核心部を過ぎても気を抜けない。丸太のハシゴや高巻が続き、別山谷への下りが待っている。

ロープや鉄の足場を使って別山谷に下り、河原でようやく休むことが出来た。



飛び石で別山谷を渡り、水平歩道を進むが川床が段々近くなる。右側を見上げると黒部三大岩壁の黒部の魔神が聳え、紅葉とのコントラストが実に美しい。対岸に鳴沢小沢の滝が見え、ここで昼食の予定だったが時間が早いので先に進むことにする。鳴沢まで来たらSLから「バスに乗るから昼食を早くして」と言われ、ここでランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、パンと一緒にいただいた。ここからすぐに内蔵助谷を丸木橋で渡り、道が平坦になると黒部ダム姿が現れる。黒部川を渡る棧橋で最後の休憩を取り、カリントウを食べてエネルギーを

補給する。棧橋を渡って、ダム横の斜面を急登すると道路に出て、道路を九十九折れに進むと黒部ダム駅に到着する。丁度14:05のバスが出た所で、皆さんはトイレに行き、我輩は乗車券を買いに行く。14:35のトロリーバスに乗り、20分で扇沢駅に着く。駅から駐車場に行き、一番下の駐車場まで下りると愛車が待っていた。回送業者の方からキーを受け取り、靴を履き替えて荷物を積んだら出発する。観光シーズンで大町市内から安曇野ICまでが渋滞したが、高速道は順調に走り、皆さんが頑張っ

